

大学教育研究センター講演会 「全人教育」 飯吉厚夫学長が講演

1月13日、大学リサーチセンターで大学教育研究センター主催の講演会が開催された。飯吉厚夫学長は「全人教育を考える」と題して、本学の学長になって以来考え続けてきた教育とは何か、大学とは何かについて、教職員に講演を行った。

これから大学は学問と教育の両面で大きく変わらなければならない。そのためには大学とは何かにつ

いて、一度原点に戻って考える必要がある。大学の原点は紀元前387年ごろのプラトンのアカデミアまでさかのぼるが、そこは学問の殿堂であり、人間教育の場であった。学を総合したものが学問であり、魂（知・情・意）の人間教育が中心でこれこそが大学の原点である。

では現在の大学の問題点は何か。まず学があまりにも細分化・専門化されすぎて学問が総合化されなくなった。つまり木をみて森が見えないという状態になっており、さらに教育が知識偏重になってしまい、人間力の部分が軽視されてきた。



講演する飯吉学長

これからは国民に親しまれる大学づくりを目指すべきである。そのために学問を再構築して万人のための学問とし、知識偏重から人間力（知性・感性・技能・体力）を重視した全人教育をすべきである。

講演の中で千谷慧子名誉教授・桐山雅子助教授（学生相談室）・手塚麻美助教授（健康科学教室）・田中淳子元助教授による特別研究C「大学教育を考える」—知に偏らない教育・人間としての発達をすすめる総合教育—についても紹介があった。

最後に中部大学はこれから大学の原点である学問の殿堂と全人教育を柱とした教育を通して新しい中部大学を再生することが必要ではないか—これこそ平成版大学のルネサンスをもたらす先駆となるであろうと語った。